

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## なぜAppleは強いのか

～製品分解からわかる真の技術力～

清水洋治

技術評論社 2,640円(税込)

iPhoneやApple Watch、Macintoshなど米アップル社の歴代製品を分解・分析して、技術力の核心に迫った書。筐体を開け部品の配置と実装を確認し、半導体はモールドを剥がしダイ(半導体チップ)を解析する。iPhone 14 ProとA16 Bionicプロセッサなど2022年時点で最新の製品については、さらに詳細な分析・解析を行う。製品ごとの部品表や仕様だけではなく、一覧表もあるので技術の変遷を知ることができる。

筆者は、アップルがWi-FiやUWB、Bluetoothなど通信LSIまでも自前で開発しており、いまや立派な通信用半導体メーカーであることを明らかにする。写真に“物を言わせる”方針を貫き、文書は簡単な説明にとどまる。遠距離通勤をされている方なら、自宅から会社までの往復で読み終えることも可能だ。ハードウェア技術者にとって貴重な情報が詰まった1冊である。

## 奇跡のフォント

～教科書が読めない子どもを知って～  
UDデジタル教科書体 開発物語～

高田裕美

時事通信社 1,980円(税込)

ディスレクシア(発達性読み書き障害)や弱視など読み書きに障害をもつ子供にとっても、読みやすい字体(フォント)

「UDデジタル教科書体」の開発物語。2017年にWindows10の標準フォントとして採用され、現在は教科書での採用が進んでいるという。

ディスレクシアは人口の5～8%の割合で存在し、文字が重なって見えたり、似た字の区別がとっさにできず、文字の読み取りに困難が伴う。UDデジタル教科書体は、細部まで注意をはらい、当事者に対する定量的な評価を重ねて、こうした問題に対処した。

筆者は、フォントとは何かについて初学者にも分かりやすく解説する。フォントの適用範囲は多種多様である。書籍や雑誌、Webなどはもちろん、テレビのテロップ用、デジタルサイネージ用、駅や空港のモニター用など、適材適所のフォントが用いられる

## イーロン・マスク 上、下

ウォルター・アイザックソン、井口耕二・訳  
文藝春秋 上下とも2,420円(税込)

『スティーブ・ジョブズ』を執筆した作家の手によるイーロン・マスクの伝記。破天荒とは彼のような人物を言うのだろう。リスク依存症とも言える生き様とエネルギーは凄まじい。すべてゼロから考え直し、先例や定説、安全サイドをいっさい無視する「仕事の流儀」は大したものである。

Tesla、SpaceX、Starlink、Neuralink、X(旧Twitter)を経営するマスクの伝記らしく、話は目まぐるしく展開する。上巻は51章、下巻は44章に分かれ細切れ状態だが、手練れの伝記作家は知ら

れざる企業経営の実態と私生活にうまく迫っている。「もう少し深掘りしても良いのでは」と感じる部分も散見されるが、個々のエピソードの面白さがそれを打ち消す。Twitterを大混乱に陥らせた買収とリストラに関する逸話は特に面白い。上下2巻で900ページ近いと大著だが読む価値は十分にある。

## インド

～グローバル・サウスの超大国～

近藤正規

中央公論新社 1,078円(税込)

中国を抜き世界最大の人口を抱え、GDPは英国を抜いて5位、2026年には日本を抜くといわれるインドについての入門書。歴史、文化、産業、社会、政治、外交などをバランスよくまとめている。インドの強さと弱さがよく分かる。筆者は30年以上にわたってインドを調査研究している国際基督教大学 上級准教授。筆者の知見がぎっしりと詰まった、お薦めの1冊である。

インドは世界最大の民主主義国である。民主主義とは一線を画す新興国や発展途上国が増えるなかで存在感を強めている。米国や中国、ロシアに偏らない中立外交で、グローバルサウスと呼ばれる新興国・途上国のリーダーと目される存在である。紛争を抱える中国との関係を、台湾問題を絡めて解説する箇所は読み応えがある。製造業の弱さという欠点を抱えるインド産業の分析にも役立ち感がある。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マクロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現日経クロスストック)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 首席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、2020年4月(株)DX/パートナーズ アドバイザリーパートナー、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

\*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

